



決勝レポート

2017/4/23 Rd-1 鈴鹿サーキット

天候：晴れ 気温：21℃ 出走台数：19台

観客数：22日(土)21,000人、23日(日)35,000人 合計56,000人

連日の好天で迎えた開幕戦鈴鹿。今年は約50kmレース距離が短縮され、スプリントレースの要素が強くなるとともに、タイヤ交換の義務付けもありスタート、チーム戦略、ピットストップだけでなく、運やタイミングも行方を左右するだろう。

5列目10番グリッドからスタートの伊沢選手は2ポジションアップの好スタート。野尻選手は良い動き出しだったがスペースがなくポジション維持で、それぞれクリーンスタートを決める。オープニングラックで、早速6台のマシンがピットイン、レースに適用されているタイヤ1本以上交換義務を果たす。続く2周目には3台が、さらに3周目に2台が、タイヤを交換。タイヤ交換グループと未交換グループの、2グループによるレースが展開されてゆく。ピットインタイミングを他とずらす戦略の伊沢選手は14周目にピットイン。5.4秒の素早いピットワークでコースに復帰した。野尻選手は、少なめのガソリンでスタートし他車とのマージンを築く戦略だったが、ラップペースは上がらず、4本タイヤ交換と長めの給油を済ませてコース復帰した時点で最下位までポジションを落としてしまう。

レース後半の21周目にスピン車両回収のため、セーフティカーが発動。各車マージンがリセットされ2周後に再スタート。伊沢選手はポイント圏内の8位を死守し、8位フィニッシュ。貴重な1ポイントを獲得した。野尻選手は16位でレースを終えた。

40：野尻選手 16位 (HONDA 勢8位)

新スペックのヨコハマタイヤの特性に合わせることにテスト時から苦労していて、開幕戦に向けては様々準備して臨んだのですが、上手く機能させられませんでした。

ペースは悪かったですが、レース距離を走ったことで、理解できたことや、次につながる発見も多くありました。失敗を進歩の一つと前向きに考え、本来のパフォーマンスに戻して次戦に臨むためにも、良い緊張感をもってチーム一丸となって、車体も自分自身も前進を続けます。

41：伊沢選手 8位 (HONDA 勢4位)

移籍初のレースをもっと上位で戦いたかったのですが、予選の位置を考えれば最終的には1ポイントとれたのは良かったと思います。まだまだ課題が多いですが、レースを走りながら多くの事を感じ取ることが出来たので、車両データと合わせて今後に活かしてゆきます。次戦岡山は2レース制の超スプリントレースです。引き続きモチベーション高く望みます。